

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた
機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議（第3回）

議事概要

1. 日時：平成28年9月26日（月） 9：00～10：05
2. 場所：合同庁舎4号館4階 共用第2特別大会議室
3. 出席者：

丸川 珠代	東京オリンピック・パラリンピック大臣
平田 竹男	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長
井内 摂男	内閣府知的財産戦略推進事務局長
宮田 亮平	文化庁長官
松永 明	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
森本 浩一	文部科学省国際統括官
磯谷 桂介	文化庁長官官房審議官
時澤 忠	総務省大臣官房地域力創造審議官
<u>吉田 真人</u>	<u>総務省情報流通行政局審議官</u>
下川 眞樹太	外務省大臣官房国際文化交流審議官
山名 規雄	国税庁長官官房審議官
堀江 裕	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
<u>西 経子</u>	<u>農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室長</u>
安藤 久佳	経済産業省商務情報政策局長
<u>加藤 庸之</u>	<u>観光庁観光地域振興部部長</u>
<u>桃原 慎一郎</u>	<u>東京都生活文化局次長</u>
<u>戸谷 泰之</u>	<u>東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画調整担当部長</u>
村松 明典	東京都産業労働局次長
布村 幸彦	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長

（オブザーバー）

- | | |
|--------------|------------------------------|
| <u>塩野 徹</u> | <u>全国知事会調査第二部部長</u> |
| <u>笹島 晃司</u> | <u>全国市長会社会文教部部長</u> |
| 石田 直裕 | 全国町村会事務総長 |
| <u>柄 博子</u> | <u>独立行政法人国際交流基金理事</u> |
| <u>池原 充洋</u> | <u>独立行政法人国立文化財機構理事</u> |
| <u>山下 和茂</u> | <u>独立行政法人国立美術館理事</u> |
| <u>平林 正吉</u> | <u>独立行政法人日本芸術文化振興会理事</u> |
| <u>若井 英二</u> | <u>株式会社海外需要開拓支援機構 専務執行役員</u> |

宮尾 正浩 独立行政法人日本貿易振興機構サービス産業部オリンピック・
パラリンピック推進課課長

吉田 晶子 独立行政法人国際観光振興機構理事

(事務局)

多田 健一郎 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競
技大会推進本部事務局企画・推進統括官

十時 憲司 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競
技大会推進本部事務局参事官

清水 幹治 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競
技大会推進本部事務局参事官

※下線は代理出席

4. 議事要旨

<丸川東京オリンピック・パラリンピック大臣 挨拶>

【丸川大臣】

おはようございます。皆様方、本日はお忙しい中、文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議にご出席賜りましてありがとうございます。新任でございますので、改めてご挨拶させていただきます。先日の内閣改造で、オリパラ担当になりました丸川珠代でございます。どうぞよろしくお願いたします。

スポーツの大会であるオリンピック・パラリンピック大会でございますが、私も今回リオに行かせていただきまして、改めて文化の祭典であると感じました。またオリンピック・パラリンピック大会は文化を通じて日本の魅力を発信する非常に重要な機会であると認識を新たにしたところであります。

皆様も日本を紹介するパートをご覧になって感じていらっしゃると思いますが、いわゆる伝統的な芸術文化のみならず、和食、日本酒、デザイン、コンテンツ、メディア芸術、ファッション、障害者アート等様々な分野がございますので、大変恐縮ですが、朝早くから関係する多くの皆様にお集まりいただいたということになります。

オリパラ基本方針におきまして、大会をきっかけに日本の魅力を発信していくということが、一つの柱になっております。それぞれの事業を通じて、日本全国で文化が盛り上がり、2020年大会への機運が高まり、共生社会や国際性といった2020年以降を見据えたレガシーが創出されることを期待しております。

リオ大会が終わりまして、いよいよ次は東京ということで世界も日本国民も注目をしている中でございます。各省庁等においては、基本方針の考え方に沿って、それぞれの施策を積極的に進めていただきたいと思います。また取組状況については、今後もこの会議においてそれぞれの立場からご報告をぜひお願いいたします。

構成員としては、関係省庁のみならず組織委員会や東京都にも参加していただいております。オブザーバーには地方三団体をはじめ、多くの関係機関の参画を得ることができ大

変心強く思っております。2020年東京大会に向けて関係機関で情報共有、連携を深めまして一体感をもって取り組んでいただけるよう、よろしくお願いしたいと存じます。

＜議事2から議事5＞

資料に沿って説明

＜意見交換・各省庁等取組報告＞

【知財事務局】

内閣府知財事務局ではクールジャパン戦略を担当しており、日本の魅力を海外に情報発信いたしまして、海外への商品・サービスの展開や、インバウンドによる国内消費の各段階を効果的に展開し、日本の経済成長につなげるブランド戦略を進めております。クールジャパン戦略は、資料の2.にあります5つの視点で進めておりまして、体制については、資料の3.にありますようにクールジャパン戦略担当大臣の下、関係府省や関係機関等にご参加・ご協力をいただきながら、官民一体となって進めております。

今後、内閣府知財事務局が自ら行っていくものとして、地方のクールジャパン資源の発掘・発信を目的とした地方版クールジャパン推進会議を開催し、地域別のクールジャパン推進計画の策定・実施への協力を行っていきます。また、海外における大型イベントで日本の魅力を発信したり、民間主導によるクールジャパンの拠点構築に向けた動きに対し、それらをネットワーク化するための橋渡し役を担ったりしていきます。

クールジャパン戦略につきましても、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や beyond2020 に向けた取組と歩調を合わせながら、海外への魅力発信を行っていきたいと考えております。

【文化庁長官】

先ほどもご説明がありましたが、芸術系大学コンソーシアムが beyond2020 のロゴマークを作成中でございます。これが大きな意味では、水戸の黄門さまが印籠を出すような気持ちでやっていただければ、非常にインパクトのあるものになると考えております。それが、公認のエンブレムと同時に、応援のマークとして認められていくことを大きく期待しております。

私どもは日本の持っているポップカルチャーも含めて、非常に深い文化の歴史がございますので、それを改めて認識するきっかけになれば良いと考えております。先般の安倍首相にご登場いただいた安倍マリオにしても、一つの例でございますが、とんでもない左端、とんでもない右端、天井、下をうまく組み合わせて驚きと感動と文化の発信の意義を感じ取っ

てもらえればよいと考えております。ぜひともご協力と、連携していくということをおこの際、強くよろしくお願いいたします。

【厚労省】

資料はございませんが、簡単にご報告申し上げます。

障害者の芸術文化活動支援として文化庁と連携しながら進めてございます。厚生労働省では、国民文化祭と引き続いて開催しております障害者芸術・文化祭を開催しております。本年度は愛知県、来年度は奈良県で実施し、このようなところでの障害者芸術文化活動の推進を行っております。また、今年度まで障害者芸術活動支援モデル事業で行った支援を全国に展開し、裾野が広がるよう取組を行う予定であり、内閣官房や文化庁、組織委員会などの関係機関と連携を図りながら、障害者の自立支援、共生社会の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

【観光庁】

2020年のオリパラ大会を見据えまして、スポーツと文化、観光を一体的に推進することにより相乗効果を測ろうということで、今年度3月に包括連携協定を締結しております。具体的には、シンボルマークを決定しました。また「スポーツ文化ツーリズムアワード」を開始しております。こちらは「スポーツ」と「文化資源」を組み合わせたもので、44件の応募があり、10件を選ばせていただきました。またこの中から大賞と各庁長官賞を年末までに選んでいく予定です。

また官民連携の動きということで、これまで日本旅行業協会と連携した形で、9月のシルバークウィークは「Japan Travel Week」という形で実施していましたが、今年から「Japan Travel Month」と拡大して情報発信に取り組んでおります。

【国際観光振興機構（JNTO）】

JNTOにおいては、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会開催期間中に訪日プロモーションを通じて、日本の文化を世界に情報発信させていただきました。4点ご紹介させていただきます。

まず、「Tokyo2020 JAPAN HOUSEでのVisit Japanブース設置」という形で、同ジャパンハウス内にブースを設置しパンフレットの配布や、各地の観光資源の動画を放映するなどして、日本の観光魅力を発信しました。

また、「グローバル・メディアによる情報発信」と致しまして、アトランタオリンピック陸上競技の金メダリストであるカナダのドノバン・ベイリー氏を起用し、同氏が東京都内および和歌山県の高野山を散策しまして、日本の歴史・伝統文化を体験する映像を製作し、BBCの世界的なネットワークを通じて、TVCMやインターネットで放映し、日本の観光魅

力を発信したところです。

また「ジャパン・オンライン・メディアセンターの開設」としてメディア向けのライブラリーサイトを8月18日に開設いたしております。これはメディアが会員登録を行うことにより、様々な日本の観光資源、日本の文化の魅力の発信に、著作権フリーで高品質な映像や画像素材を無料でダウンロードできるサイトとなっています。

リオデジャネイロのオリンピック開催期間中の8月18日にJAPANハウスにおきまして、内外のメディアに対して、このウェブサイトの開設イベントを実施しております。

「国際ニュース通信社と連携した画像素材提供による情報発信」と致しまして、世界最大級の国際ニュース通信社であるロイターやAP通信社と連携し、世界約110の国と地域のメディアに向けて日本を紹介するニュースコンテンツ映像を製作・発信し、各国での日本に関するニュース掲載促進を行いました。

【東京都】

東京都生活文化局でございます。

「東京文化プログラム」についてご報告させていただきます。東京都と致しましても今秋から4年間を「東京文化プログラム」の期間と位置づけまして、多くの都民をはじめとした、全国、海外の多くの方々に訴求するプログラムを展開して参ります。

方針については、「多くの方々の参画を得る、東京都、全国各地が連携する」「組織委員会や国とも連携する」といたしまして、28年度は、9月以降150程度の事業を展開する予定となっております。

主催事業のうち「東京2020文化オリンピックアードキックオフ」は組織委員会と、また「東京キャラバン in 六本木」は先ほどご紹介ありました、スポーツ・文化・ワールドフォーラムとの連携となっております。「東京芸術祭2016」については、昨日池袋にてオープニングをさせていただきます。

今後こちらにご参加いただいている皆様と連携をしながら進めていきたいと思っております。

【国際交流基金】

まず一つはリオデジャネイロの大会に合わせて実施した事業でございます。大会直前の7月に集中的に事業を行いました。「1964年の東京のオリンピック回顧から2020年のTOKYOへの展望」をコンセプトに日伯共同でコンサート、展覧会、映画の上映を行いました。コンサートは、1964年当時に流行しました「上を向いて歩こう」が、ここ何年かオノヨーコが英訳を作り、世界から注目されていることもあり、日本とブラジル両方で、両国のアーティストが上を向いて歩こうを中心にコンサートを行いました。参加した東京スカパラダイスオーケストラはファベラにあります彼らが作っているブラスバンドでワークショップ

プを行い、彼らにもコンサートに参加してもらいました。

展示事業については、ブラジルで初めての現代美術の展覧会として実施し、美術という伝統というイメージが大きかったですが、新たな美術の紹介をできたと思っています。会場は、パソ・インペリアル一体で東京都が事業を行っておりまして、相乗効果があったと思っています。

また、先ほど文科省から紹介がありました「スポーツ・文化・ワールドフォーラム」に合わせ三番叟と、イノベティブシティフォーラムを実施することになっております。三番叟については、杉本博司さんが演出を担当し、野村萬齋さんに出演していただくこととなっており、現代と伝統の融合という事業をスポーツ・文化大臣を中心に見ていただくこととなっております。

また、森アートミュージアム、アカデミーヒルズと共催でイノベティブ・シティフォーラムに東南アジアからの専門家を呼ぶ形でご協力することとなっております。

【文化庁】

文化庁審議官の磯谷でございます。長官の意見を補足する形でご説明させていただきます。

この資料自体は概算要求の資料でして、文化プログラムの独自予算ではなく、文化庁予算として、文化プログラム推進に参画できるものをまとめさせていただいております。

文化庁としましては、3つのレイヤーがあると思っております。文化庁自らが主催するプロジェクト、自治体や地方公共団体、民間が主催する取組を文化庁が補助するプロジェクト、後援名義なり beyond2020 の取組等を通じてご支援させていただく取組と考えております。

スケジュールですが10月のスポーツ・文化・ワールドフォーラムが終了した後、文化庁としましては、文化庁芸術祭、文化庁メディア芸術祭といった取組について、beyond2020 もしくは文化オリンピックアードに位置付けるべく、協力、参画をしていきたいと考えております。

来年の4月には、文化プログラムの情報を集約、発信する文化プログラムのプラットフォームの構築・運用に取り組んでおりまして、国、地方自治体、民間企業が取組む beyond2020 あるいは文化オリンピックアードなど関連情報を、お祭りから地域の伝統芸能等を取り込んで、多言語で発信するプラットフォームを関係機関と連携して調査研究に取り組んでおります。

それから beyond2020、文化オリンピックアードについては全国地域にPRする必要があると考えており、文化庁の事業とタイアップして、PRを実施していきたいと考えております。

【文化庁長官】

新しいマークができますが、そのマークの表現の仕方と、そのアピールの仕方を慎重かつ大胆に行ってほしいと思っています。私の経験値で言うと、ご存知の通り、エンブレムの第2回目の審査に携わらせていただいておりますが、アピールがあることによって、文化プログラムが応援団としてのプライドを持つことができます。先ほどのペーパーを見る限りではPRの点が弱いと。PRのところを考えていただくとよろしいかと思えます。それに対して、私からも応援をさせていただきたいと考えております。

【外務省】

先ほど国際交流基金から、リオの前後の文化行事の紹介がありましたが、外務省といたしましても通常行っている文化行事さらには2020年のオリンピック・パラリンピックを見据えて行う予定の大型の文化行事の場を最大限活用しまして、オリンピックのアピールに努めてまいりたいと考えております。その関係で先ほど、長官からもご指摘のありましたこのロゴについては、非常に重要だと思っております。オフィシャルなロゴ使用については、制限や条件があることは承知しておりますが、応援ロゴについては、最大限活用させていただきまして、在外大使館で行う色々な活動、これは大使館のみならず民間の活用含めてですが、オリンピックをアピールさせていただこうと思っております。

また、大型の文化行事ですが、今回リオのジャパンハウスでも紹介させていただきましたが、2018年にフランスにて大型の文化展を開催すべく、内閣官房主導で進めているところでありますし、2019年、2020年と同様の大型文化展を国際交流基金、関係団体と協力しながら進めていく予定でして、オリンピックのプロモーションの一環であると意識をもって取り組んでまいりたい。

<平田事務局長より総括>

【平田局長】

本日はありがとうございました。2013年9月にブエノスアイレスで、IOC総会がございましたが、そこから3年が経ち、その間、オリパラ関連の様々なことがありました。良いことを申し上げますと、私が着任以来、五輪と言わずに「オリパラ」と呼んでいきたいと申し上げてまいりましたが、基本的に今、マスコミも含めて、「オリパラ」と言っていただけになりました。ユニバーサル社会、共生社会については、この「オリパラ」の浸透が、共生社会の政策の波を作れたと感じております。

また、これは我々の力ではありませんが、観光客が著しく増えまして、私がオリンピックを担当した当初は、観光客が1000万人を超えていなかったのですが、2000万人を超

え、観光政策に対するアテンションが高まったということです。オリパラ招致の決定から考えると、顕著なものとしては共生社会政策、観光政策の波が高まっていますが、こういう中で文化もアテンションが高まってきたと思っています。これからの4年間は、2020年に向けて、共生社会や観光に加えて、文化を高めることが日本にとって重要であり、オリパラを用いて文化政策の波を高めていくことが、重要であると感じております。本日は関係府省庁・関連機関の取組をご報告いただきました。また芸大の学生にも beyond2020 マークを作っていただくことが決定しております。今後根っこの部分の文化をどう高めていくかが重要であります。日本には、元来素晴らしい文化資源があるが、多言語対応がなされていなかったり、素晴らしいものでもしまっておいて外に見せなかったり、ということはやろしくないので、迎賓館や国立の施設の公開等を促していく施策、それを応援するための機運醸成をしていくことが必要です。

実際に文化関連の手续や予算は大変なことが多いので、ぜひ、お力をお貸しいただければ幸いです。また関係省庁のみならず、東京都、組織委員会、関係団体の皆様の力が必要となっております。今日はリオから東京というタイミングで文化を高めていくため、皆様のご協力を得られたということで、改めて感謝申し上げます。

・ 閉会